



初夢

ごとうちとせ

明けまして御目出度う御座います、雜誌婦人と子供も生れ出で、茲に入歳幼兒ならば今年から小学校へ通ひ初むるめでたき年、フレイベル會は創立以來丁度十三年目、十三と云ふと昔ならもう元服して一人前になつた人もあつたといふ結構な年で、之から愈々會も雜誌も大に發展すること、初春ながら一入にめてたく嬉しく存せられます

去年と今年のわけ目の夜半として世は忙はしい大晦日を除夜の述懐よ何よやよと遊び送る閑散な身は愛讀の婦人と子供一卷十二冊とち合し面白さ節々讀み回して眠りにつくとは不思議身はいつか途上の人となつて居ります、走る電車に行き交

ふ御馬車、松竹に七五三繩、軒毎の日の大御旗のひらめき、赤のリボンの羽子つき合や、水兵服の風上けやと如何にも賑はしい町々を通る、どうやら小川町の様だと思ふと足は早勸工場を左に見て右外濠の線路に向つて進んで居ります、扱て甲賀町の中程へ來ると驚いたの驚かないのとアノ殺風景な電車の車庫が一夜のうちに取り拂はれて、代りに建つた和洋折衷のゆかしき一棟！昔大名の御邸宅に見た様な卵色の立派な塀、植込められた松並の枝もたわゝにかゝれる白雪、知らぬ間に誰れの仕わざや昔なにかの御伽噺に聞いた事の様だが」と塀について進みますと何處ともなく奏樂ピアノの響、續きで起る君か代の合唱、一愛らしき幼兒の其讀聲は確かに件の建物よりのひびき、扱ては此處新設の幼稚園なりけり、公立にや私立にや、一度保育に係はりし身の何となく問まはしくてと云ふ譯で大門たづねて袋町に廻りますと是はそも如何に！こは是れ實にフレイベル會會立の幼稚園！其の立派な檜の門柱に筆太に書き掲げられたる門札によつてわかつたのです、ハテ昨夜讀んだ

「婦人と子供には何と云ふ報告も無かつたが、……而し會員の一人だから見せて呉れない譯もあるまいとそろ／＼門内に入りますと右の花壇には春の花、左りのそれには秋の草、彼方には小鳥の囀り、此方には小羊のさまよひ、園内ひっそりとして夕べの間に龍宮が卅世の中に浮び出たかと怪しまる、計り、正面なる大玄關に行つて呼鈴を押すと學生らしい女小使

只今御子がたが式を遊はして居らるので先生方も皆アチラに御出で御座いますかアノ誰様とやさしげにいふ

何某様が御出でになるやら少とも存じませんが御園のなづかしさに一寸參觀を、アノ會員の一人で御座いますから、と園長様に御話して下さ

傍へなる應接室に入ると先づ目についたのは壁上の揭示

兼ねて本會より保育事業研究の爲歐米に留學せられたる振鈴會子氏螢雪の功成り昨春歸朝爾後一年茲に開園の機運に向へり

云々の語つまりは創立の主意保育事業の必要をときたる主意書である

マア何と御目出度い事で、くづ／＼病みあかして居るうちに斯る立派な事業が婦人の手によつてなつたかと驚き入つて居りますと彼方の室では年の始めのーのと云ふのが終つて活潑な小靴の音が廊下を通る愛らしい聲も聞える、やがて玄關前が一寸混雑小さい制服つけた愛らしいのが手に手をとつて歸りゆく百二三十名もあつたであらうか、後は復たひっそり、室のドアが開いたと思ふと二十六七の上品な保姆君

「アラまわ何那樣かと思ひましたら先生で御座いしましたか？御久し振りで。御別れ申してから何年になりますかしら大層おふけになりました、

茲で又驚く「扱てはどんなに年老いたらら机上の硯箱を玉手箱かと疑ふ

どなたで御座いましたネ？年をとるとこれだからいけません

未だうら若いと云うて呉れ、ばい、にとの悔しさ

をふしかくして云ふ

「ソウで御座いましたかあの御茶の水幼稚園の保育實習科に居りました者で、ナニ一寸先生に御世話いたしました丈ですぐ御別れいたしましたから」

「オヤマア左様で御座いましたか失禮いたしました」

「此幼稚園の事は少しも知らずに居つたがと聞くと此保姆君流石は御茶の水育ち、中々甘く話す人でフレーベル會の發展、幹事方の御熱心、會員諸氏の御盡力、扱ては嘗て保姆なりし何某氏か此度大家の夫人となられたので本會に二万圓の大金を寄附された事それで此幼稚園が建てられたこと敷地は婦人の幹事達が御熱心にめであられて何宮様とか貴さあたりより借用御許しを蒙つた事、當園設計は實に幹事長其他の數年以來の考案を理想的に實現された事、本會の本部も御茶の水の幼稚園から離れ獨立して此建物内に移された事、此三月には甲賀町に向いた方に一大書肆を新設して、フレーベル會編輯部で編纂したる幾多有益なる書類

を發賣する事其著書中には世界の保育界を驚かしたる大作もある事、編輯係りには角帽上りの方も

三人是も御婦人な事、書肆の隣りには大きな玩具店を設けて模範的玩具併びに幼稚園恩物、及び手

織の材料を全國に向つて供給する事該玩具店では外國の注文に、應じた事イヤ來年當りよ

り應ずべき事、雜誌婦人と子供は世界各國の有らゆる幼稚園に配附せられ好評噴々近來は歐米教育

家の寄稿せらるゝもの甚だ多きに至た事、ア、其れから當園には附屬養育所といふのがあつて貧民

の幼兒等を預り育て、居る事、遊園設備の完全なのは實に世界に其比を見ずといふ事萬事斯の如き

有様故此程天國より月夜劉曉たる奏樂の下五人の天使が舞ひ下つて「天上なるフレーベル大先生よ

りフレーベル會の大發展を嘉す」といふ有難い御言葉とたまはり其時期はつた月桂冠はアノ遊戯室

の正面に白木檜の立派な御棚に安置し奉つてある事斯る大發展に伴ひ全國會員の數實に萬を以て數

ふるに至り各縣に支部を置き毎歲四月二十一日の總會の盛大さは戦後に於ける愛國婦人會のそのの

如く之に參會せんとて態々日本に渡つて來た歐米婦人も數々見えて居つた事等、イヤハヤ續げ様に面白く話したまはるので只驚嘆の外なく

「まわ」
と云つた其大聲に思はず目覺ひれば何ぞ是れ捕河の一夢！鶏鳴曉を報じて明治四十一年の初春めでたく明け渡りたり、夕べ讀みさしたる「婦人と子供」の長閑なる朝風うけてヒラヒラと纏りたるは

「さなり十年後のフレール會は汝が初夢の如く然り」
といふにやわらむ。一年の計劃は元旦にありとか會の前途を祝したる初夢！記して以て新年の詞に代へた次第で御座います。



△日本人包圍せらる (某氏談)
余か或日岩本茂三郎氏(實業練習生なりしが、不幸數週前、米國に死せり)とマサチューセツト州の某市に散歩し、一隊の兒童に會へり余曰く「カムオン」
群兒余に近づき來りたれば、試みに其中の三兒に一仙宛を與へたるに、群兒は九萬蜂の軍を破ぶりたるが如く一齋に「ギヴ、ミー、エ、セント」
一仙呉れと呼び出し、余を擁して、坂路を上り來ること二丁目餘、「去れ」
と號令するも、いッかな肯かず、乃ち彼等に謂つて曰く「已れはもう錢がない、彼處に居る日本人は澤山持つて居るから、彼處に行け」
群兒聞ふ「彼の名は何」曰く「セオ一ツ」
是に於て乎、群兒忽ち轉じて、向側を歩るきつゝありし岩本氏に向て、一齊射撃を試み、氏を包圍して「セオ一ツ、ギヴ、ミー、エ、セント」と吶喊したり、氏は年少にして、且つ其性極めて穩順なるを以て、進退殆ど谷まるが如く見えしが、余は此機に乗じ路を轉じて、寓居に歸り、支關の椅子に凭れて兵を待ち居りしに、纏て三十分も立ちたりと思ふ頃、氏は息も絶えくにて歸來し、「ア、阿米利加に來てから、こんな目に會つたことは一度もない、仕方がないから二十五仙出して之を分配しろといつて、辛らくも旗願口から逃げ出した」